

令和7年度岩手県立美術館協議会議事録

1 日 時	令和7年9月10日（木）10:30～12:00
2 場 所	岩手県立美術館 会議室
3 出 席 委 員	伊藤真紀子、梶田佐知子、加村なつえ、菊池勝彦、熊谷治久、齋藤桃子、田中麻里、三上瑞穂、八重樫慎之介、柳田陽一、山内圭介、山口真樹（以上12名）
4 欠 席 委 員	合川常美、大衡彩織、小野寺真貴子（以上3名）
5（県側出席者） 生涯学習文化財課	藤井茂樹総括課長、小野寺英徳主査、小野寺大地主事
6 文化振興事業団	佐々木真一事務局長、村上絵美主査
7 美 術 館	長内努館長、多賀聰副館長、千田貴浩総務課長、吉田尊子学芸普及課長、加藤俊明上席専門学芸員、住吉オリエ主任専門学芸調査員、千葉達也主任主査、杉田友視主査

1 開 会	事務局より、委員15名のうち14名の出席により、岩手県立美術館管理運営規則第9条第2項に規定する委員の半数以上の出席という要件を満たしている旨報告された。
2 委 員 紹 介	（出席者名簿により自己紹介）
3 職 員 紹 介	（出席者名簿により出席職員を紹介）
4 館 長 挨 捶	長内館長より挨拶があった。（挨拶内容省略）
5 議 長 就 任	岩手県立美術館管理運営規則第8条第2項の規定により、議長は会長が務めることとされていることから、以後の議事は、山口会長が進行した。
6 議 事	
（1）説明事項 説明事項 ア	岩手県立美術館の概要について（資料1） 美術館 千葉主任主査より説明を行った。（説明内容省略）
	説明に対しての意見はなかった。
説明事項 イ	令和6年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応について（資料2） 美術館 千葉主任主査より説明を行った。（説明内容省略）
◆梶田佐知子委員	説明事項の最初の項目「岩手県立美術館の概要」の意見について対応が書かれていないので、お答えいただきたい。

美術館 長内館長	私も館長になる大分前に美術館協議会で、同様の意見を述べたことがある。当時はオープンして何年もたっていない時期であったため、確かに堅苦しいイメージはあった。その際、当時の在籍した学芸員から、美術館はある程度の格式、あるいは品格のようなものは必要だと言われたことがある。しかし、私は納得せず、もっと一般の人たちに来てもらうようにもっと敷居を下げなければならないのではないかと訴えてきた。その当時と比べると、今の美術館はかなり敷居が下がった、あるいはやわらかくなったという感想を持っている。当時は、ジブリ展やサンリオ展をやるなどということは到底考えられない状況だった。そういう意味では、そういったものを一般に受け入れてもらえるような企画展を年に少なくとも1つはやろうということが出てきたのは、考え方当時に比べてやわらかくなり、敷居を下げようとする努力をしているからである。もちろん意見のとおり、まだまだ敷居が高いと感じている人は多いと思うが、私もそのあたりを考えながら敷居を下げる努力をしていきたいと思っている。意見は受け止めて、何とかしたいという気持ちがあるが、すぐに企画展や事業につながるものではないので、時間をかけながら、そういう方向にこれから少しでも進んでいければと思っている。
◆梶田佐知子委員	私は今回の回答では、まだ、「うーん」と感じる部分があり、離れていてもわざわざ足を運んでもらえるような工夫が欲しいと思う。私がパフォーム展を見に来たときに、公園には親子連れがたくさん来ていたが、その人たちは中には入ってこられなかつたようだ。暑いので「中で涼んだらどうですか」と親子連れに話してみたが、トイレの張り紙のことなどがあつて、入りにくかったのだと思う。こんなに親子で来ているのだから、もう少し門戸を広げてくれたら、子どもたちも「こういうところに美術館があるんだな」、「こういうのをやっているんだな」と思ってくれると思う。そういうことを私は言いたかったのだが、伝わっていないのだと思う。スポーツは小さいときからいろいろな大会などで受け入れ、教えたりするが、美術はそういうのがあまりないと思う。美術館で夏休みの工作のきっかけになるようなことをやっていても、それが伝わらず、ふらっと入ったときに、「えっ、こういうこともやっているの、じゃあ、ちょっと涼みながらそういうことに参加してみようかな」と思ってもらえるような、まずは人が集まる場所にしなければどんなによい作品を買って展示しても目に触れない。そういうところがとても残念だと思う。自分が子育てしてきたときに、わざわざ東京や仙台で展覧会をやっているのには一生懸命行ったが、岩手の美術館はあまりなかったなと思っていたので、やはり今のお母さんたちにもう少し門戸を開いてほしいと思った。
◆齋藤桃子委員	レストランのことで、去年のこの会議でも検討中とあったが、閉店時から考えるともう2年ぐらいになるかと思う。美術館には私は車で来ることが多く、車で駐車場に入つてくると道路も荒れている。歩道も工事中かと思われるが荒れており、草もぼうぼうだ。そんな中、一番初めに目に入るレストランが閉まっている。それが何年か続いていれば残念だと思う。採算が取れるようなレストラン経営者を見つけるのはとても難しいのだろうと思うが、レストランでなくてもいいのではないか。使い方の問題もあると思うが、例えば子どもたちがワークショップをしている姿を見せるとか、少し違った使い方をしながら、レストランが見つかれば入つてもらえばいいが、あそこが閉まつていると美術館に入ろうという気持ちの盛り上がりが、少し下がるのではないかと心配している。
◆山口議長	レストランの区画的には消防法などの制約で、レストラン以外のことはできないとか、そういう制約があるのか。単なるフロアとして一般開放できるものか確認したい。
美術館 多賀副館長	あの区画は、県が直接管理している。空調や電気をつけることはコストがかかるので、去年は県に空調や電気の費用を負担してもらい、フリースペースとして飲食できる形で運営した。今年度は財政当局の理解が得られず、現時点では去年のような形にはできなかつた。今年度も業者の調査を行い、少し明かりが見えつつあるが、はつきりとしたことは言えない状況だ。歯

	切れが悪く申し訳ないが、このような状況だと察してほしい。
◆伊藤真紀子委員	キッチンカーは最近多いと思う。レストランが使えないでも、美術館の敷地内にキッチンカーを呼ぶ仕組みがあれば少しにぎやかになりよいのではないか。上野の国立博物館でも敷地内にキッチンカーが3、4台並んでいるのを展覧会で見た。今はキッチンカーが美術館の品位を落すとかふさわしくないという話からは大分受け入れられているように感じるため、利便性の向上のために期間限定でも検討してはどうか。
美術館 多賀副館長	去年のサンリオ展のときに、サンリオ側でキッチンカーを出してもらったので、今年も同じように呼べるようにしたいと話題になったが、業者へのアプローチの仕方などで止まっていた。問題意識は持っております、来館者だけでなく利用できるものにしたいと思っている。
梶田佐知子委員	レストランに入る業者にはどのような条件があるのか知りたい。営業をするためにはいろいろなところで認められなければすぐにできないのは分かった。まず、一番簡単にできるのは玄関の貼り紙を外すことだ。「トイレを貸さない」という貼り紙があれば入りにくいのは当然なので、まずそれを外すことが入りやすくなる一歩だと思う。そこからお願いたい。
生涯学習文化財課 藤井総括課長	県にもレストラン復活の要望は強く、去年から検討している。副館長から話があったように、業者への声掛けは、今まで食事が中心の飲食店という条件だったが、「軽食でもよい」と広げたところ、光熱費的な問題もあるが、応募が来そうな感じがあり、前向きに進められると思っている。
美術館 多賀副館長	貼り紙に関しては、館内で再度協議して対処していきたい。
◆梶田佐知子 委員	業者を募集する条件はどういうものか、教えてほしい。
美術館 多賀副館長	美術館で募集はしないので、営業するには業者が県の敷地の利用許可を得て、営業する形になる。そのため、声掛けはできるが、手続は業者が県に許可をもらい、管理敷地内で営業をしてよいかどうかの形で、取次ぎ程度しかできない。 トイレの件も貼り紙をしているが、実際には中央公園の利用者もよく来ている。貼り紙の形で一応断ってはいるが、全て冷たく「駄目ですよ」と言っているのではなく、実態はこのような形で運用している。
◆梶田佐知子 委員	レストランの件は、アイナにも福祉の方たちが入って運営している例があり、社会参加の目的もあるようだ。業者だけとは言わず、そういう福祉の活動をしている方たちとも進めるのも一つだと思う。私は美術館に人が集まるということが一つの前提だと思っており、それがなければ本当に美術と県民の多様な結びつきは難しいと思うので、よろしくお願いたい。
生涯学習文化財課 藤井総括課長	レストランについては、制限があるように見えるが、実際は広く門戸を開いており、福祉施設にも声かけて実際興味を示している方もいる。ただし、最終的に使用料や光熱費がかかり、採算性が厳しいという意見も多く、そこでやむなく断念するというようなところが多くある。そうした中でうまく折り合いをつけて参入してくれる業者や事業団、福祉団体などにも広く声をかけているので、もう少し待ってほしい。よろしくお願いたい。
◆田中麻里委員	友の会でもボランティアで解説をしており、コレクション展の人数に関心がある。コレクション展のアピールをもっとしたらどうかと運営委員会でも話題になった。前回SNSの話をしたが、企画展やイベントの案内は行うと思うが、コレクション展も新しい作品が入ったときなど、定期的に情報を出してもよいのではないかという話が出た。また、齋藤委員から話もあったが、バスのロータリー付近、舟越の彫刻のあたりの草がぼうぼうで気になるという意見もだったので、そちらもよろしくお願いたい。

美術館 吉田学芸普及課長	SNSに関しては指摘のとおりで、体制を整えたい。
美術館 多賀副館長	先週私も草刈りをしたが、人手が足りず、全体まで行き届かず申し訳ない。除草作業の委託回数が限られていること、中央公園の方を盛岡市が刈ると伸びているのが目立つので、見苦しくないように、できる限りやっていきたい。
説明事項 ウ	「観覧者数の推移について」(資料3) 美術館 千葉主任主査より説明を行った。(説明内容省略)
◆加村なつえ委員	展覧会の「アートフェスタいわて」だが、昨年度はフライヤー、チラシが発行されなかったと思う。これは、観覧者としても、出品者としても「寂しいな」、「何でかな」と思った。ペーパーレスの流れや、予算の問題だろうと思うが、復活してほしいと思う。このフライヤーがなくなったことによって、観覧者数はどうなったのか。
美術館 吉田学芸普及課長	昨年度は、非常に予算が厳しく、アートフェスタいわては印刷物を切り詰める状況になつた。結果、観覧者数2,300と出ているが、例年2週間程度の会期で2,500前後を推移しているので、それほど観覧者数的には変わっていない。昨年、印刷物を切り詰めたため、どのくらい違いが出るものかと思ったが、思ったほどの差はなかった。ペーパーレスの流れもあるが、予算的には厳しくなる一方で、今年もその路線を維持せざるを得ない状況である。なお、昨年度はチラシの配布の手立てがなかったが、今年はポスターのデータをホームページに掲載して、そこからダウンロードし情報を得てもらうスタイルで今やる予定である。昨年度も、そのような声があり、途中からそのスタイルで実施したが、おそらくこの流れはもう止められないのではないかと思っている。
◆伊藤真紀子委員	アートフェスタ展で、去年の広報で取った手段を教えていただきたい。ポスターは印刷したのか。
美術館 吉田学芸普及課長	ポスターは作成した。チラシがなくDMの形での案内状、それからチケットである。他はテレビCM、ラジオ広報、それからSNS。ほかの展覧会と手段は変わらないが、どうしても規模が小さいものになってしまった。
◆齋藤桃子委員	「アートフェスタいわて」とは違うが、コレクション展で1人の作家を特集するとき、県立美術館ではとても力を入れていると感じる。自分のところで所蔵している作品だけではなく、作家からも借り出しを行って、コレクション展だが、企画展ではないかというくらい個人をフューチャーしている特集がある。昨年は百瀬寿さんがその形で展覧会をしていると思うが、全部をペーパーレス化せず、企画展のような形でやったコレクション展は、簡単でも構わないの冊子を残してほしい。難しいと去年も言われているが、今年も同じことを言いたい。これを積み重ねていくことが、岩手の美術をつくり、残していくことだと思う。ぜひ予算をつけてほしい。
美術館 吉田学芸普及課長	その危機感は学芸員も持っております、「アブリーレ」で作家のインタビューなどで、その片鱗を記録し公開している。おっしゃるとおり、作家のそういったコレクション展や企画展を記録して残すことはやはり美術館の役割だと思うので、何とかうまく融通したい。

◆山口議長	チラシは興味がなくても目に入り興味を示してもらえるという良さがある。SNSは広く拡散できるが、調べないと出てこない。自分が興味を持って、行かないと出てこないという違いはかなり大きいと思う。美術に興味ある人は、SNSで美術館のフォローはしている。しかし、それ以外の人には届きにくいので、全県に一度でもSNSをフォローしてもらうような何か大きな企画など、SNSもやっていることを知ってもらい、常に自分のタイムラインに上がってくるような仕掛けをつくってからのほうがよい気がする。そうしないと、やはりチラシほど効果は薄いと思う。
美術館 吉田学芸普及課長	各展覧会でアンケートを回収しているが、やはりポスター、チラシで知ったというのが、今も大きな割合を占めているのは事実である。
説明事項 エ	「令和7年度事業実施状況について」（資料4） 美術館 千葉主任主査より説明を行った。（説明内容省略）
◆伊藤真紀子委員	自主事業のアの「40周年記念事業アートイベント2025」というのはどのような企画なのか。開催日、内容を教えていただきたい。
美術館 千葉主任主査	11月15日、16日で実施予定である。全館クイズラリー、コンサート、ワークショップなど全館を使用したイベントを企画しており、楽しめるようなイベントを行っていきたいと思っている。そのほか毎年恒例の無声映画のアートシネマも計画している。
説明事項 エ	「美術品収集について」（資料5） 美術館 多賀副館長、吉田学芸普及課長より説明を行った。（説明内容省略）
◆齋藤桃子委員	舟越桂さんの作品収集に感謝したい。拝見し、とても興奮した。桂さんの特集は一時的なものと思うが、将来的には、今の3人の特集に加わっても良いのではないかという気持ちもあるくらいだ。SNSで告知すれば人が来るのはないかと思った。 それとは別に今回の展示では、IMA展の成果のような形で若い人の作品、40代もいる。40代くらいまでの若い人の作品は、評価が固まっていないところもあるので、躊躇する面もあるのかもしれないが、こういった若い世代の収集にも積極的であるという姿勢はとてもよいと思う。IMA展が、それぞれの学芸員が自分とタッグを組む作家を見つけて行っている展覧会で、それが収集につながるというのは、収集の仕方としてはとても正統派、あるいはその館の特色を出していく、学芸員の力を発揮していくという意味ではとてもよい収集の仕方だと思うので、IMA展のやり方も続けて展覧会をぜひやってもらいたいと思った。
◆伊藤真紀子委員	齋藤委員の意見に非常に共感する。舟越桂さんの特集はすごくよい展覧会だった。次の菅さんも同様に一室でやると思うので、とても期待している。そのとおりIMA展からの引き継ぎで若い方、新収蔵の方も増えたようであり、今後とも岩手の作家たち、若い方、それから昔の方であまり知られていないような村上誠さんなど、広く岩手に関わる美術ということで、アールブリュットの作品、障がい者アートの作品も今常設展示されているが、そのような幅広く、これからだと映像やアニメーションなども増えてくるのかもしれないが、いろいろな方、いろいろなタイプの方を広く取り上げてほしいと思う。どうぞよろしくお願いしたい。 それから、昨年55点の美術品を収集し県民に全部紹介されるということであるが、令和7年度は取得しないのか。

美術館 吉田学芸普及課長	今年度は、現在、調査を進めている。主に、次の展覧会である澤田哲郎さんの作品調査や、遺族の方からの資料があるようだが、そこで当館で持っていないタイプの作品をまず企画展で紹介し、そこから収集につなげていこうと考えている。また、県立美術館は菅木志雄さんを展示する、舟越桂さんを展示するというのが、だんだん知られていくと、作品を持っているという方からの情報提供や、別のコレクション、コレクターの方からの申出が様々あり、ますます広がっていくのではないかと考えている。
◆伊藤真紀子委員	寄贈はとてもありがたいが、やはり購入も絶対必要なところだと思う。 ぜひ県でも、「そんなものを買うの」と言わず、積極的に予算をつけ、必要なものは機会を逃すと、先ほども話があったように海外のコレクターに買われてしまって、どこに行ったか分からない状況になりかねないので、ぜひ機会は逃さず購入してほしい。
美術館 吉田学芸普及課長	購入に関しては、美術品取得基金を使用している。今は基金とはいえ取り崩している状況であり、将来を見据えながらどのように作品を増やしていくか、購入はもちろん大事であり、寄贈という形でその作品を美術館の収集作品にできるという関係性、作家やコレクターなど、そういう方との関係を築いた上での寄贈もある。日々の活動を、地道に積み上げていきたいと思っている。
◆伊藤真紀子委員	企画展や常設展で広く取り上げているからこそ寄贈があると思うので、今後も継続して幅広く活躍を期待している。
◆柳田陽一委員	学校教員の立場から話すと、現在、高校再編で子どもたちの意見を取り入れてどのように生かしていくかということをやっている。収集作品についても、例えば、子どもからの「こういうのをもっと見たいな」、「こういうのなら面白いんじゃないの」という意見を取り入れて今後進めることができればよいと思う。よろしくお願ひしたい。
美術館 多賀副館長	これまで小学校、中学校との連携が多かったが、今年から、高校や大学の学生の声もくみ取りたいということで、例えば高文連や高校の高教研などとの連携を模索し始めたところ。先生方からアンケートで意見をもらう形になっており、今後先生方を通して生徒や大学の学生からの声を拾えるようなことを考えながら学校との連携を進めていければと思っている。
◆梶田佐知子委員	いつも学芸員の話聞くと、本当に努力し、勉強し、企画しているのが伝わり、本当にありがたい気持ちだ。「これを購入したいです」という作品があった際に、予算がないときにこういうのを買う必要性はどうかと、過去には結構話が出たと思うが、私はそういうのにお金をかけるのが大事ではないかということを発言した一人だ。その後、会議に出ることはできなかつたが、無事に購入できたようで良かったと思っている。 これに対し、県民はどのような声を上げたかという部分が気になるので、一つ、二つ、紹介いただければありがたい。
美術館 吉田学芸普及課長	取得した作品については、今コレクション展で紹介を始めてまだ1か月半、2か月近いところだが、購入や寄贈を受けたとのリリースは特にしておらず、展示室にて紹介する形である。それに対して、来館者の声やリアクションは日々のアンケートや実際に来館者からの話などで受けている。
美術館 杉田主査	コレクション展については、最近現代美術など様々な展示をしているので、アンケートでは面白い作品が見られてよかったですと、世代を問わず好評だ。
◆ 山口議長	収集作品に関しての特別なアンケートを取っているわけではいと理解した。 皆さんから意見をもらいたいが、時間が迫っているので、学校教育からの意見も伺いたい。 小学校から順にお願いしたい。
◆三上瑞穂委員	私が担任の頃、4年生を美術館に連れてきたことがあるが、「走るな、騒ぐな、触るな」と本当に緊張した。要は、子供たちに鑑賞の仕方や鑑賞の楽しさを教えきれていなかったと今は

	思っている。しばらくして、教科書会社でも鑑賞に関して力を入れ、楽しいカードやいろいろな鑑賞の仕方を教える教材が出ている。いろいろ作家の絵が描いてあるカードで、広げてこの中から「自分の好きなカードを選ぼう」「その理由は」としっかりと言葉にさせている。子どもたちは、そこから鑑賞の力だけではなく、人によって感じ方が違うのだというような心の勉強にもなり、とてもよいと思っている。話を聞き、子どもたちと美術の接点、あるいはより近づけるために、2つ感じことがある。1つ目は先人教育を盛岡市でやっているが、そこで美術関係者の扱いが薄いと感じており、そこは工夫できると感じた。2つ目はEテレで「びじゅチューン」という番組がやっており、そういうものから入れば子どもたちは食いつくのではないかと感じた。
◆熊谷治久 委員	美術が専門ではないので、申し訳ないが、生徒たちは様々こういった作品を見て、大変いい刺激を受けているのだろうと思う。なかなか本物の作品を見る機会は少ないとと思うので、大変貴重な機会に感謝する。私が学校の教員ということを離れて個人としては、芸術、美術の部分が専門ではなく、美術館になかなか訪れることがあまりないが、「パフォーマンス」がかなり宣伝されており、そういうところをきっかけに訪れるというのも大変よい機会なのではないかと思う。私のように敷居が高いと感じる人もいるのかもしれないが、そこに「聞いたことがある」とか、「こういうの見に行ってみたいな」というところから入っていくとよいのかと思う。初めて出席するので、分からぬことも多いが、作品の購入というのもお金がかかるものと思う。県の財政も大変厳しい状況の中で、簡単ではない仕事をしていると思っている。今後ともいろいろ頑張ってほしい。
◆菊池勝彦 委員	南昌みらい高校には芸術学系を設置しており、芸術に関しては関心のある生徒たちが多く、美術以外の生徒たちが触れる機会もあるようだ。授業だと高校の美術は選択教科で、美術を選択しなければ高校時代に美術と接する機会がないという現状がある。そういう意味で、様々な機会において、多くの生徒が美術に触れることがあればと日頃から感じている。芸術だからということではなく、ほかの分野でも言えると思うのだが、やはり小学校時代の様々な経験や体験というのは非常に大きく、動機づけといったもので、中学校、高校で芸術分野や美術分野を専門的に学ぼうというような生徒も出てくると思う。そういうことを考えると、やはり早い段階で美術館に来館して、様々なものを見ることが非常に大きいと感じる。それが、学校としての授業や個人的な来館もあるかもしれないが、やはり小学校段階等では週末に家族と一緒に来館するといったことが、一番身近だと思う。会議の最初にも話があったが、気軽に来館できるような取組が求められているのではないかと考えている。よろしくお願ひしたい。
その他	「ヘンリー・ムーア作品の寄託及び展示公開について」(情報提供) 美術館 吉田学芸普及課長より説明を行った。(説明内容省略)
(4) 閉会 ◆ 山口議長	以上をもって本日の美術館協議会を終わる。